

『真言密教の思想と信仰－空海・静遍・道範・道順－』

はじめに 空海の思想と信仰

- 第一章 空海の思想と信仰
- 第一節 弘法大師を巡る信仰について－即身成仏・入定・留身・舍利－
- 第二節 『声字実相義』について－その思想的背景を中心として－
- 第三節 弘法大師空海の『入楞伽経』理解－特に『秘密漫荼羅教付法伝』を中心として－
- 第四節 弘法大師空海の『大智度論』理解－『辯顯密二教論』を起因として－
- 第五節 『金剛頂經開題』に見る思想的特徴について
- 第六節 『選択本願念仏集』に説かれる五逆重罪について－空海思想の影響－
- 第七節 空海と茶(道)と聖なる空間－空海・永忠・嵯峨天皇－
- 第八節 空海の唱えた心身智無量論
- 第九節 『秘密漫荼羅十住心論』の撰述を巡る問題について
- 第二章 静遍の思想と信仰－理智事三點説の提唱－
- 第一節 禅林寺静遍の提唱した教学について－特に教主論を中心として－
- 第二節 禅林寺静遍の草木非情成仏説について
- 第三節 静遍の教學の特徴について
- 第四節 静遍の信仰について
- 第五節 静遍の『釈摩訶衍論』観について－『顯密二教論手鏡鈔』を手掛かりとして－
- 第三章 道範の思想と信仰－秘密念仏思想・南無大師遍照金剛の提唱－
- 第一節 覚本房道範の生没年について
- 第二節 道範の大日・阿弥陀・釈迦觀について－本地自性身・能加持身・所加持身に注目して－
- 第三節 道範記『菩提心論談義記』について
- 第四節 道範撰『金剛頂經開題勘註』について
- 第五節 道範記『初心頓覺鈔』について
- 第六節 『声字実相義抄』に説かれる如義言説について－禪宗(宋朝禪)と真言宗の交渉を中心として－
- 第七節 真言密教における生死觀－特に道範の周辺を中心として－
- 第八節 道範の『釈摩訶衍論應教鈔』について
- 第四章 道順の思想と信仰－醍醐教学・二根交会－
- 第一節 道順記『常盤井殿記録』について
- 第二節 『常盤井殿記録』に見る真言教學について
- 第三節 『常盤井殿記録』翻刻
- 第五章 思想と信仰の諸相
- 第一節 勅撰・信堅記『釈摩訶衍論私記』の總演大意について
- 第二節 『釈摩訶衍論』所説の両輪具闕益損門について
- 第三節 本圓の『両部曼荼羅義記』について－真言密教と曼荼羅－
- 第四節 『講演錄』『平家物語』と『高野山參詣曼荼羅』
- 第五節 『講演錄』『熊野參詣曼荼羅』にみる信仰について
- 第六節 『講演錄』密教における身體論について－五臟論に注目して－
- 第六章 安心論の思想と信仰
- 第一節 真言密教における安心論の展開－空海の思想と生きる意味－
- 第二節 憲深の『宗骨抄』にみる生死觀－安心の導入－
- 第三節 長谷宝秀師の安心(三句「因・根・究竟」安心説)
- 第四節 榎尾祥雲師の安心(秘密莊嚴安心説と標語「遍照金剛」の提唱)
- 第五節 大山公淳師の安心(同行二人安心説)
- 第六節 上田天瑞師の安心(本具仞性安心・大師信仰安心・修行累徳安心・世業勤務安心説)
- 第七節 亀井宗忠師の安心(凡聖不二安心・三密安心説)
- 第八節 空海の思想と現代